

総括評価表

(学校名：富岡東高等学校羽ノ浦校) (No.3)

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
Ⅲ 心豊かな人間性を育み、社会に貢献できる看護師の育成をめざす。	《全校レベル》 日常生活における挨拶を励行することで基本的な生活習慣の確立を図る。又、望ましい言葉遣いや態度、マナーを身につけさせることで社会性を育む。	評価指標 ①生徒会や生活委員等による挨拶運動を年間10回実施する。 ②「服装・マナーアップ週間」を月初めに設定し、挨拶、相手・場に応じた言葉遣い、礼儀・マナーについて自己評価させ、社会的素養を高める。 ③各学期毎に個人面談を実施し、生徒学生とコミュニケーションを図ることにより、生活習慣・学習状況等の把握に努める。 ④人権講演会を年間2回実施し、全教職員が年1回以上参加する。 ⑤年3回以上いじめ・悩みアンケートを実施し、それを基にスクールカウンセラーと連携し、面談を行うことで速やかに細かい対応をする。	評価指標の達成度 ①学校評価アンケートの「本校は将来を見据えて、基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」という項目では生徒92%、保護者89%となった。 ②生徒の自己評価として、「適切な言葉遣いできている」という項目では97%、「校則・マナーを守っている」98%という結果となった。 ③学校評価アンケートの「教員は一人一人の生徒を理解しようとしている」という項目では生徒79%、保護者79%となった。 ④「スマホ・ネット安全教室」で情報技術の活用とリスクについて学習した。また、「ヤングケアラー出張授業」で、もと当事者から現状や課題についての学びを深めた。 ⑤学校評価アンケートの「本校は多様な悩みを相談することができる機会を設けている」という項目では生徒78%、保護者70%となった。	総合評価 A (所見) 学校評価アンケート「教員は一人一人の生徒を理解しようとしている」の項目で、「十分できている」は、教員に対して生徒の評価は高いが保護者の評価が低い。「大体できている」を含めると、教員に対して保護者及び生徒の評価は低く出ている。教員間での情報共有を徹底し、生徒理解に努めたい。次に、「人権を尊重するための様々な取組」の項目では、保護者及び生徒の肯定的評価が90%となっており、人権教育への取組が十分理解されている。	○5年一貫教育において、社会に貢献できる人間性を育てようとする教育活動は、大変評価できるものである。 ○学生・生徒をよく理解して、先生方が日頃より細やかに接していることがよくわかる。これからも、一人一人と向き合う指導を継続することによって、育てて欲しい。 ○学生は、オンとオフの切り替えができています。卒業後を見据えた生活指導も効果を上げている。 ○今後も人権が尊重された、安心・安全な学校づくりに努める。そして、5年一貫の教育環境を生かし、『生涯にわたり学びの姿勢を持った、社会に貢献できる看護師の育成』に努めたい。
	《下位組織レベル》 ①挨拶を励行する。 [生徒指導課・特別活動課] ②身だしなみや、挨拶、相手・場に応じた言葉遣い、礼儀・マナー等について自己評価させ、社会的素養を高める。 [生徒指導課] ③個人面談を充実させる。 [担任・学年団] ④教育活動全領域において、人権教育の徹底を図る。[生徒指導課] ⑤スクールカウンセラーと連携を図り、生徒の悩み等の支援体制を整備する。[生徒指導課]	活動計画 ①生徒会や生活委員等を中心に挨拶運動を実施し、挨拶の励行を促す。 ②TPOに応じた身だしなみや言葉遣いの指導を行う。 ③各学期毎に、個人面談週間を設定し実施する。 ④各種アンケートを実施し、生徒の状況把握に努める。 ⑤スクールカウンセラーと協同して、生徒の教育相談体制の充実に努める。	活動計画の実施状況 ①6・9・11・1月の年間12回、挨拶運動を実施した。 ②職員室の入退室時や各行事での所作や言葉遣いなど、臨地実習等でのマナー指導を想定して学校生活全般で常時指導を実施した。 ③各学期に生徒はキャリアパスポートの振り返りシートを記入しており、その内容も含めて個別に面談を実施している。1学期末には全保護者との個人懇談を実施した。 ④各学期ごとのいじめアンケートと悩みアンケートを実施することで、生徒の状況把握に努めた。 ⑤スクールカウンセラーの利用は1月19日現在で6回であり、スクールカウンセラーやスクールロイヤーから助言をうけ、教育相談体制の充実に努めた。		